

UmbrellaサービスのTLS 1.2をサポートするためのエンドポイントのアップグレード

内容

[はじめに](#)

[TLS 1.2要件の概要](#)

[TLS 1.0/1.1サポートの更新](#)

[AnyConnectまたはRoamingクライアントデバイスの保護](#)

[セキュアなWebゲートウェイのサポート](#)

[Umbrella Active Directoryコネクタの要件](#)

[Umbrellaエージェント：最小バージョン要件](#)

[Windows Roaming ClientまたはAnyConnectモジュール](#)

[macOSローミングクライアントまたはAnyConnectモジュール](#)

[その他のFAQ](#)

[期限までにエンドポイントが更新されない場合はどうなりますか。](#)

[レジストリキーは古いバージョンでも機能しますか。](#)

[TLS 1.2のみをテストできますか？](#)

[TLS 1.0および1.1を廃止する理由](#)

[2020年3月31日が選択された理由は何ですか。](#)

[最新のデバイスを使用しているユーザに影響を与えることはありますか。](#)

[TLS 1.2のエンドポイントを更新した後、Umbrellaサポートを再び有効にするには、さらにアクションが必要ですか。](#)

[TLS 1.2のエンドポイントサポートを確認するにはどうすればよいですか。](#)

[Windows Webブラウザのサポート](#)

[Windows .NET Frameworkのサポート](#)

[Apple Macおよびその他のシステム](#)

はじめに

このドキュメントでは、TLS 1.2を必要とするUmbrellaサービス用のエンドポイントとアプリケーションを準備する方法について説明します。

TLS 1.2要件の概要

2020年3月31日の時点で、Transport Layer Security(TLS)1.0および1.1はUmbrellaサーバおよびサービスではサポートされなくなりました。Umbrellaで正しく機能するには、すべてのエンドポイントがTLS 1.2をサポートしている必要があります。

TLS 1.0/1.1サポートの更新

- AnyConnect、Umbrella Roaming Client、およびADコネクタを除き、Umbrellaは2020年3月

にTLS 1.0/1.1のサポートを終了しました。

- バックエンドの依存関係により、特定のダッシュボードおよびAPIサービスは2021年1月27日までTLS 1.0/1.1接続を受け入れ続けました。この日付以降、これらのサービスはTLS 1.0/1.1接続を受け付けなくなります。
- ダッシュボードまたはAPIにアクセスできないデバイスは、TLS 1.2のサポートを確認する必要があります。

AnyConnectまたはRoamingクライアントデバイスの保護

Umbrella社は、TLS 1.2へのアップグレードを完了するため、期限を2021年1月27日まで延長しました。これ以上の拡張子はありません。2021年1月27日以降にTLS 1.2の要件を満たさないAnyConnectおよびRoamingクライアントデバイスは、Umbrellaからの保護を受けなくなります。

セキュアなWebゲートウェイのサポート

- Secure Gateway製品のTLS 1.0または1.1を使用するHTTPSトラフィックは、Umbrellaではサポートされません。
- 2021年1月27日より前は、Secure Web Gateway(SGW)は、HTTPS復号化が無効になっている場合にのみ、これらのプロトコルに対して限定的なサポートを提供していました。
- [TLS 1.2をサポートするようにすべてのクライアントオペレーティングシステムを設定する](#)。
- TLS 1.2の互換性を確保するために、必要に応じてブラウザ以外のアプリケーションをアップグレードまたは変更します。アプリケーションのベンダーに連絡して指示を受けてください。

Umbrella Active Directoryコネクタの要件

Umbrellaは、サポートが終了したWindowsオペレーティングシステムに導入されたActive Directoryコネクタをサポートしていません。サポートされていないWindowsバージョン（Windows Server 2008、2008 R2、またはWindows 7）で実行されているADコネクタは、2021年1月27日にUmbrellaとの同期を停止し、エラー状態になります。

Umbrellaエージェント：最小バージョン要件

Windows Roaming ClientまたはAnyConnectモジュール

- Cisco Umbrellaローミングクライアント：バージョン2.2.356以降
- Cisco AnyConnect with Umbrellaローミングモジュール：[バージョン4.8.02042以降](#)
- 古いクライアントバージョンを使用するには、Windowsレジストリの変更によりTLS 1.2を設定します（以下の手順を参照）。
- Microsoft .NET Framework:[バージョン4.6.2以降、または.NET 3.5.1がインストールされたパッチ適用済のWindows 7](#)
（AnyConnectには.NET 4.x以降が必要）
- サポートされるWindowsバージョン：7、8、8.1、10

macOSローミングクライアントまたはAnyConnectモジュール

- Umbrella Roaming ClientまたはAnyConnectローミングモジュールの任意のバージョンが TLS 1.2をサポート
- サポートされるmacOSバージョン：10.9以降

その他のFAQ

期限までにエンドポイントが更新されない場合はどうなりますか。

TLS 1.2接続をネゴシエートできないエンドポイントは、ダッシュボード、インテリジェントプロキシサービス、ブロックページなどのUmbrellaシステムにアクセスできません。

AnyConnectでUmbrella Roamingモジュール、Umbrellaエンタープライズローミングクライアント、またはUmbrella ADコネクタを実行しているお客様は、Umbrellaサービスに接続できません。この結果、クライアントは設定とステータスをUmbrellaダッシュボードと同期できません。

既存のローミングクライアントは、次のサービスの開始時にアクティブ化を停止し、保護されないままになります。TLS 1.2をサポートしていない新しいクライアントはUmbrellaに登録できません。これらのクライアントはオープンに失敗します。DNSはローカルネットワークスタックを介して解決されますが、ローミングクライアントセキュリティサービスはアクティブになりません。

ブロックされたサイトにアクセスしようとしたデバイスや、インテリジェントプロキシ経由でルーティングされたデバイスは接続できません。ローミングクライアントを使用するデバイスは、Umbrella Webサイト、ブロックページ、またはプロキシサービスにアクセスできません。

レジストリキーは古いバージョンでも機能しますか。

はい。AnyConnectの場合はサポートされています。strongcryptoを優先するようにレジストリ編集を適用した後も、古いバージョンを引き続き使用します。上記の最小バージョンよりも前では、ローミングクライアントはTLS 1.2 strongcryptoを明示的に指定せずにHTTPS接続を開始していました。.NETがTLS 1.2をサポートしている場合、デフォルトで使用されます。レジストリキーは、.NETにstrongcryptoを使用するように強制し、新しいクライアントバージョンで更新をレプリケートします。最新リリースより古いスタンドアロンローミングクライアントはサポートされていません。

TLS 1.2のみをテストできますか？

はい。[WindowsレジストリでTLS 1.0とTLS 1.1を無効にして](#)、デバイスがTLS 1.2のみを使用して完全に動作することを確認します。

TLS 1.0および1.1を廃止する理由

TLS 1.0および1.1は古く、最新の暗号化アルゴリズムをサポートしていません。攻撃者によって悪用される可能性のある脆弱性が含まれています。[Internet Engineering Task Force \(IETF ; インターネット技術特別調査委員会 \)](#) では、両方のプロトコルを推奨していません。[暗号化されたイ](#)

[インターネットトラフィックの大部分は、10年以上前に導入されたTLS 1.2を使用します。](#)

2020年3月31日が選択された理由は何ですか。

この期間、業界ではTLS 1.0と1.1を廃止する予定です。[Google](#)、[Microsoft](#)、[Apple](#)、および[Mozilla](#)はすべて、2020年3月の時点でブラウザがTLS 1.0および1.1をサポートしていないことを発表しました。

最新のデバイスを使用しているユーザに影響を与えることはありますか。

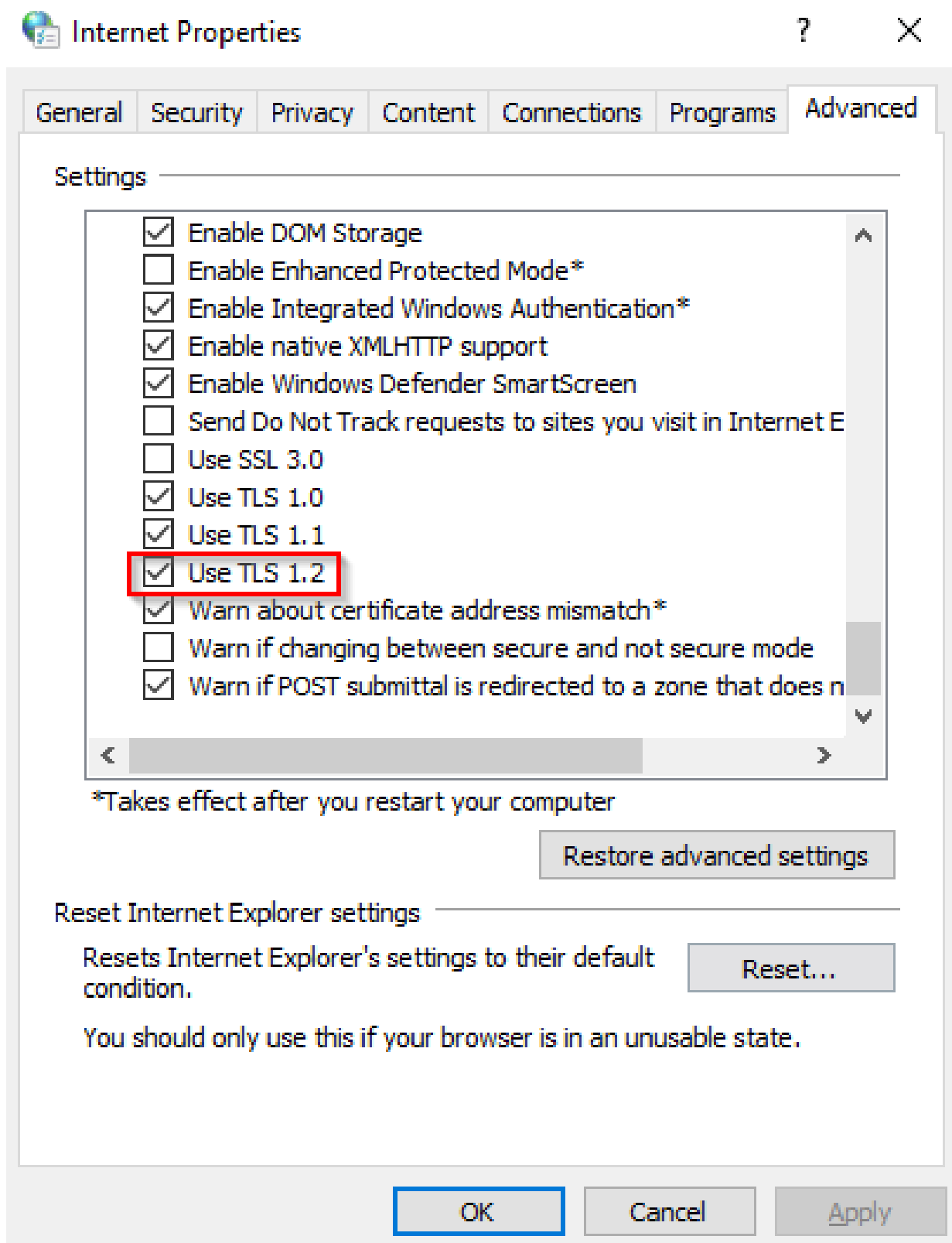
No.ほとんどのWebサイトはTLS 1.2をサポートしています。[Qualys SSL Labs](#)によると、Webサイトの95.2 %がTLS 1.2をサポートしています。この数は、2020年3月が近づくにつれて増加すると予想されます。少数のWebサイトは機能しませんが、ユーザ全体への影響は最小限です。最新のデバイスに正しいバージョンの.NET for Windowsマシンが含まれていることを確認します。

TLS 1.2のエンドポイントを更新した後、Umbrellaサポートを再び有効にするには、さらにアクションが必要ですか。

ほとんどの場合、それ以上の操作は必要ありません。クライアントは、セキュアなTLS 1.2プロトコルを使用してUmbrellaシステムとの通信を再確立します。AnyConnect用のUmbrellaエンタープライズローミングクライアントまたはUmbrellaローミングクライアントでは、クライアントソフトウェアのアップデート中にシステムがオフラインだった場合、復元に遅延が生じる可能性があります。サービスが完全に復元される前に、クライアントは更新をダウンロードする必要があります。

TLS 1.2のエンドポイントサポートを確認するにはどうすればよいですか。

- Windows Webブラウザのサポート
 - Umbrellaダッシュボードおよび関連Webサイトにアクセスします。
 - [SSL Labs Browser Testを実行します](#)。ProtocolsセクションのTLS 1.2の横に「Yes」が表示されていることを確認します。
- Windows .NET Frameworkのサポート
 - エンタープライズローミングクライアント、AnyConnectローミングモジュール、またはADコネクタに適用されます。
 - .NET 4.6.2以降では、ネイティブTLS 1.2がサポートされています。
 - 以前のバージョンでは、レジストリの編集(4.x)またはレジストリの編集と手動のホットフィックスパッチ(3.5)が必要でした。
 - この情報は、ADコネクタやRoaming Clientなど、.NET Frameworkで実行されているUmbrellaソフトウェアに適用されます。
 - [Microsoftが提供](#)する[手順](#)を実行して、オペレーティングシステムレベルでSSL、TLS 1.0、およびTLS 1.1を無効にします。



blobid0.png

- Apple Macおよびその他のシステム
- [SSLラボのブラウザテスト](#)を実行します。ProtocolsセクションのTLS 1.2の横に「Yes」が

表示されていることを確認します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。